

- らみた重要雑誌——東大医学図書館統計より——医学図書館 11, 185-191, 1964
- 6) 関川雅彦、田辺文子、東京大学図書館の洋雑誌貸出統計分析、医学図書館 30, 134-139, 1983
  - 7) 本田品子、国立がんセンターにおける雑誌の利用調査、医学図書館12, 191-203, 1965
  - 8) 本田品子、長谷川湧子、国立がんセンター図書館における資料利用の動向とその理由、医学図書館 18, 227-232, 1971
  - 9) 前田和博、河島裕子、本田品子、国立がんセンター図書館における貸出利用統計、医学図書館 26, 71-77, 1979
  - 10) 津田良成、裏田武夫監修、河辺敦子、近藤きみ集計、Index Medicus 収録和雑誌および協会加盟館における重要和雑誌、医学図書館 12, 231-259, 1965
  - 11) Gross, P. L. K. and Gross, E. M., College libraries and chemical education. Science 66, 385-389, 1927
  - 12) Hunt, J.W., Periodicals for the small bio-medical and clinical library. Libr. Quart. 7, 121-140, 1937
  - 13) Barnard, C. C., Selection of periodicals for medical and scientific libraries Lib. Ass. Rec. 40, 549-557, 1938
  - 14) 大沢充、逐次刊行物の選択(1)—総括—医学図書館 12, 1-12, 1965
  - 15) 関口昌樹、資料の収集、特に選択のポリシーについて—その背景的諸要素の考察—医学図書館 16, 1-8, 1969
  - 16) 三宅英子、医学図書館における資料の選択に用いられる資料(雑誌)、医学図書館 16, 77-84, 1969
  - 17) 野口迪子、医学図書館における逐次刊行物と継続出版物 選択—特に継続出版物について、医学図書館 16, 9-13, 1969
  - 18) 村上宏、雑誌の選択と Core journals、医学図書館 24, 105-110, 1977
  - 19) 西岡正行、医学図書館における雑誌の選択・評価、医学図書館 28, 268-282, 1981

---

## 図書委員会における司書の役割

足立純子 (聖路加国際病院 医学図書室係長 司書)

私に与えられたテーマは、「図書委員会における司書の役割」ということですので私なりに考えたことを、お話してみたいとおもいます。司書、殊に病院の図書室の司書というのは、図書委員会とは何か、レファレンス・サービスとは何かを考えるよりも、レファレンス・サービスなりを気がつかないうちに行っているんですね。そこが、強みでもあり、

弱みでもある訳です。では自分がやっていたものが果して良かったのかどうかを、時には、考えることも必要だろうと思います。今日御出席の皆さんは、図書委員会をお持ちであれば、それなりに司書としての役割を果たしていらっしゃると思いますが、こういう機会に、もう一度自分の役割が果して、これでいいのかどうか、あるいは、今以上のことができる

のか、問題を抱えている所では、何か解決方法があるのかを、お考えになるチャンスにさせていただければと思います。

はじめに、ちょっと申し上げておきたいのですが、先ほどから、ここに御出席の先生方もおっしゃっていますように、病院の図書室というのは、様々であります。今日私がお話する内容をよく理解して頂くためには、ある程度聖路加病院図書室という所を、簡単に御説明しなければならぬだろうと思います。最初に平均的な図書室の姿が提示されましたが、あれよりか、もう少し予算が多くて、スタッフも、もうちょっと多くて、臨床研修指定病院でもある総合病院の図書室とお考えいただいて、私の話を聞いていただいたらと思います。それぞれの病院というのは、独自の運営方針というか、目標、つまり、病院としてこうあるべきだという目的みたいなものを持っていると思いますが、病院図書室とは何かということを見ると、いわゆる情報提供という機能を通して、親機関の目標とするところを、診療部門とか事務部門と同様にバック・アップしていると考えていいのではないかと思います。診療とか、教育、研究上必要とされる情報を提供するというのが、病院図書室の共通した役割であると一般的には言われています。病院の設立趣旨とか、目標とか、あるいは診療、教育、研究の内容は、先ほどから御出席の先生方の病院紹介からもわかりますが、それは様々ですね。

司書というのは、そこで何をしたらいいのかを考えますと、2つの側面を持っているだろうと思います。例えば資料がそこに初めからあれば、それは利用されるように整理をしなければならぬわけで、いわゆる Technical Service 的な能力を持っていること。基本的にはこれができなければ司書とはいえないのではないかと思います。しかしこれだけでは司書として十分ではないと思います。

極端ないいかたをすると、これら Technical

Service 的な作業は、司書としての Training を受けなくても、少し図書室に勤務していればある程度のことはやっていけるだろうと思います。少し偉そうな言い方をさせて頂くならば自分のところの図書室が、その病院のいわゆる Need にあっているか、必要な情報が十分に提供できているかを考えながら、Technical Service を行ってこそ Professional な Hospital Librarian あるいは、Medical Librarian と言えるのではないかと思います。従って司書の仕事は、まず自分の病院を詳しく知ることからはじまると思います。例えば設立の趣旨とか、今までの活動の内容や経過、そして今後の方向性などです。具体的にいきますと、総合病院なのか、専門病院なのか、何か診療科に特色があるのか。研究施設を持っているのか、それとも診療だけをやっているのか。あるいは医師、看護婦、検査技師、事務職員がどの位いるのか、それ以外にもどんな専門家がいますのか。病院の年間予算はどれ位なのか。厚生省の研修指定病院なのか。各種学会の専門的教育病院に指定されているのか。病院の中には、どんな教育プログラムがあるのか等、いろいろあると思います。

いま申し上げたことは常識的なこととして、既に御存知の情報かもしれませんが、もう一度図書室のサービスと結びつけて考えていただきたいと思います。

さらに、大きい大学と違いまして、病院では利用者の数も限られますから、できれば各医師の専門とか他の利用者の興味対象とかを、把握できれば尚更よいと思います。もう一つそれと同様に重要なことは自分の図書室の現状を的確に知っておくことです。

たとえば蔵書構成、利用者層、あるいは利用される資料の傾向、そして一番重要なこととして、図書室でリクエストに応えられなかった事例などです。更に病院予算の中で図書室費用の占める割合なども知っておくことが大切です。午前中の統計に関する発表の時にも、

お話がありましたけれど、やはり大学との比較や、あるいは総合病院と専門病院とを比較することなどは余り意味がありませんから、同規模の又は似たような機構の施設と比較して、自分の図書室の長所、短所を客観的に知っておくことも大切だと思います。では、私が今申し上げた各種情報はどこから入手するか、もし病院で年次統計ですとか、事業年報、報告書とかを作ってらっしゃるようでしたら、それらから病院全般についての傾向や、教育活動、各科診療の動向、あるいは病院全体の予算などを知ることができますし、人事のこともわかるだろうと思います。更に業績集のようなものをお作りになっていれば、各先生方の専門とか、興味対象もわかってくるだろうと思います。こういったもの以外にも病歴室からいろいろなデータが入手できると私は思っているのです。例えば死亡原因や、患者の傾向などのデータなどです。他にも考えてみれば、いろいろな資料が我々のまわりにはころがっているのではないのでしょうか。しかし、最大の情報源は利用者だといえると思います。日常、利用者がどんなことを言ってくるかということが最も明確な図書室像を把握する情報源になるだろうと思います。それには、やはり利用統計がきちんと取られていなければ話にならない訳で、図書委員会で司書が果す役割以前に、日常業務がどれだけきちんと行われているかということが一番問題になってくるのではないかと思います。

さて、図書委員会というものは、私にとりましては非常に心強い存在だといえます。図書委員会の各委員を通して、現在、病院ではどういう事柄が問題になっているのか、各科で必要としている情報要求は何か等をかなりDirectに知ることができます。又、アンケートの結果でも明らかなように、収書や図書室内部でのサービス向上に関しては、司書の個人的努力次第でかなり改善されるところがありますが、人事や、予算あるいは、施設など、要す

るにお金のかかることになると、もう私どもの力の範囲を越えてしまいます。そうした場合に図書委員会というのは、利用者の要求を実際に、図書室の運営に反映させる機能を持つと同時に、図書室の強力な Spokesman として、図書室業務を強力に Back up していただける機関になっていただきたいと思っております。そこで各委員の方々にいわゆる図書室の Spokesman としての自覚を十分にもっていただくように、ここに御出席の先生方は本当に頭が下がる位に、私どもよりもかえって病院図書室のことをご存じですが、不幸にして、そうでない場合は、やはり図書委員会とはどういうものか、図書委員とはどういうものかを、わかっていただけるようにする事が司書の一番の難かしく、そして大切な役割ではないかと思っております。

話が漠然としてまいりましたので、私のところの図書委員会の紹介をして、後の討論の参考にしていただければと思います。聖路加病院の図書室は大正初期頃からあったらしいのですが、図書委員会がいつ頃から出来たのかは私もよく知りません。昭和30年頃は5～6名の医師が図書委員として任命されていたようです。しかし、図書委員会は開かれずに、司書が各委員を廻り、半分以上の委員のサインを得られた本を買っていたようです。委員の任期も決まっていなかったようでした。昭和46年に、当時の日野原重明院長代理が病院の機構改革を行い、その時に図書委員会も正式に発足いたしました。当初は医師が8名、司書が1名の図書委員会でした。昭和46年以来、委員には司書を含めて全員に辞令がでます。現在は8月を除いて毎月定期的に会が開かれるようになっております。先ほど年11回も委員会やって何を話しているんだろうという御意見もありましたが、とにかく年11回開いております。

昭和46年の発足を機会に、購入図書のみならず、図書室運営全体について討議するよ

うになりました。委員は2年毎に院長から指名され、委員長は医長の中から選ばれます。

また、看護婦の利用増加に伴いまして、昭和51年に看護部門からも委員が加わりました。従来、事務系は独自に図書を購入していましたが、昭和57年から事務系図書、及び業務用図書も全て図書委員会で扱うようになりました。そこで事務系からも委員に入ってもらいたい希望を持っておりますが、今のところは、Doctorが中心の委員会になっております。次に図書委員会を開くまでの準備についてお話しします。皆さんの所にも出入の書店がそれぞれあると思いますが、聖路加でも出入りの書店から毎月見計い本が入ってきます。更にそれ以外にも各社の出版案内とか様々な情報が図書室には送られて参ります。また先ほどお話にも出ましたがCore Journal, Core Bookの例えばJ. A. M. A, British Medical Journal, Lancet, New England J. of Medicineなどの代表的な週刊誌の書評欄やBooks Receivedなどに可能な限り目を通して、どんなものが出版されているかを知っておくことは大切だと思います。そして、それらの書評の中から、自分の図書室にどうかと思うような図書は、書店からの見計いとして持ってきてもらうようにしています。でも実際にはなかなか書評を読んだ位では本当に必要なのかどうか判らないですね。ただ、私どもの場合は、原則としては、利用者からのリクエストを図書委員会で検討するシステムになっておりますので、各専門分野での新刊書というのは、それぞれ専門の先生方のリクエストを中心に考えています。

各種統計類や辞書類、あるいは基礎系の教科書的なもの、又は図書委員が出ていない科の図書や専任の医師がいないような科に関する図書はできる限り、図書室でカバーし、出版情報を関係者に意識的に流すようにしています。時にはいわゆる教科書として揃えておくべき図書で、リクエストが出てこなかっ

たものについて、図書室の方で取り寄せ、本当に図書室に備えておく必要がないのかどうか関係者の意見を伺うようなこともしております。

何がBasicで、何がCoreなのかということとは、大いに議論の余地があり、今日一日話しても終るものではありませんが、一般によく参考にされるものとしては、Alfred Brandonという人が2年おきにアメリカの医学図書館協会誌に出している小さい図書室向けの図書及び雑誌リスト、いわゆるBrandon Listを参考にさせていただければいいと思います。日本語のものに関しては、こちらの近畿病協で編集されたManualの後の方に出ているリストを参考にさせていただければいいのではないかと思います。もう一つはBritish Medical Journalに、3ヶ月～4ヶ月ごとにClifford Hawkinsという人が“*What's new in the new edition?*”というコーナーを担当しています。これはテキスト的な内容の図書の新しい版が出るたびに、内容がどう変わったかを説明してくれています。これに限らず様々な批評にできる限り目を通すようにして、もしも良さそうな図書があれば、見計いで取り寄せ関係者に書評をつけて届け、内容をチェックして頂くようにしています。前にも申し上げましたが、統計類だとか、辞典・辞書の類は、ある程度司書の裁量で選べ、図書委員会でも通りますが、残念ながら専門書となりますと、私などは信用がそれほどありません。他の図書室でも司書の推選した図書がすんなり通らないことを経験されることも多いと思います。司書なんて選書では本当に微力だと思われしられます。しかしながら正攻法では駄目でも、病院として購入しておいた方が良くと思われる図書があれば、その分野の専門家の意見を伺い、必要とすべき図書との判断が下されれば、その先生の名前で図書委員会に出していただくというような方法を考えてみてもよいかもしれません。収書方針に関して

は、先ほどのアンケート結果と同様のものが、私共にもありますので、個人のリクエストのうち、当院の収書方針にあっていれば、見計いで取り寄せることにしております。

時々、広告だけで購入してほしいというリクエストがありますが、私どもの場合、できる限り現物の図書を取り寄せる方針を取っておりまして、図書が届いた時点でリクエストされた方に見て頂き、再度、図書委員会に購入希望を出すかどうかを伺うことにしております。購入希望を出すということになると、購入希望の理由が必要です。一応私ども司書の方で聞いておくか、あるいは購入希望図書願いというものがありますので、それに必要な理由を書いていただくようにしています。委員会までに購入希望図書に関して、改版されたものであれば、図書室所蔵の旧版の版数をチェックしたり、似たような内容のものが図書室に既に購入されていないかをチェックし、問題がなければ購入希望図書一覧表を作る事になります。

以上が図書室側からのデータとして委員会に提出され、購入図書の決定が行われます。また選書以外の報告事項とか協議事項をもリストアップし、質問が予想される時には資料と共に、それに対する図書室側の希望的な意見を必ず作成しておきます。そして最終的にはそれが通るように努力するようにしております。先程も申しましたが、私どもの病院では、同じ方が何年も委員をつとめて下さることもありますけれど、一応委員の任期は二年なのです。そうしますと毎年必ず新しい方が入ってらっしゃいますので、そういった先生方には図書室業務に関する説明を簡単にさせていただいて、委員というものの役割を暗にお話するようにしております。それとは別に毎年作成する病院の報告書に図書室のことが4ページ位書かれていますし、さらに別途の、この会場のうしろに展示しています年報を図書室独自に作成しています。これを図書

委員全員に配り、一年に一度は図書室業務の報告をかなり詳しく行っています。ちょっと余談ですけども、私どもがはじめ年報を作ろうと思いましたが、上から命令されたわけではなく、このような報告書を作らないと図書室は何をやっているのかよその部署に全然わかってもらえなかったので作りはじめた次第です。それと午前中にも篠原さんが云ってらっしゃいましたが、記録に残らない仕事というのが図書室の場合かなりありますので、そういった理由からも細かいことまで報告書には全部入れ、トータルな意味での図書室を判ってもらるようにしています。説明も数字だけでなく、私のコメントも附記してありますので、もしよろしければご覧になってください。開催回数については、毎月（8月を除いて）11回というのは確かに大変なんです。10人近く委員がおりますので全員揃うというのは殆んど不可能な話です。手術がまだ終わらないとか、あるいは研究日にぶつかっているとかで一人か二人は抜けることがあります。それでも通常3分の2以上は出て下さいます。そこで、聖路加病院の場合は、例えば奇数月は月曜日、偶数月は火曜日にするとかしてできるだけ多くの先生方に出席していただけるよう工夫しています。大体一週間前くらいに掲示をしまして、更に当日も各先生方に電話をして出欠の確認と議題の中味について簡単に説明をします。

実際の委員会の運営につきましては、委員長と事前に打合せをしますが、委員長が議事進行をしてくれます。そして収書方針に添って、予算は一カ月に15~20万円位の目安で、それ以内に収まるように司書は電卓を持って計算しながらやっております。議事の進行は委員長が行ないますが議題の提出、各種報告など司書が行ないまして、委員会終了後は必ず記録を作成するようにしています。これが聖路加病院のやり方です。先程も申しましたが、人事とか施設とかお金のかかるこ

とにしましては、私ども司書だけで決定することは無理で、特に図書委員長との二人三脚という形で院長あるいは事務長に交渉を行わなければいけません。そこで、図書委員長の先生と如何に仲良くやっていくか、あるいは図書室のことを如何に良く判っていただけかということが一番問題になってくると思います。私どもの場合は二年任期ということで、ある程度判っていただけたところに、また新しい先生になってしまうということがおこります。しかし逆に考えてみますと、二年任期ということは今うちの病院の医長の多くが図書委員長を経験してくださることになるわけで、最初は相手の性格とか好みとかを知るのに苦労する面がありますが、やはり一人でも多くの先生が図書室に関わりを持ったことがあるというのは、非常にいいことではないかと自分に言いかけながらやっています。

図書委員会の議題の中心は、やはり選書のようですが、司書としてお願いしたいことは、できれば日常の運営管理上の基本方針とか、収書方針とかの大きなことを委員会で決めていただきたいということです。といいますのは、そういう大きな方針がはっきりしていれば、司書の方で独自に判断し事を進めてゆけ

る部分はかなり多くなってくると思われるからです。それと、司書が委員会のメンバーに入っていないところでは、やはり司書をメンバーの一員に加えていただきたいと思うのです。また発言権のない場合は発言権を持たせてほしいと思います。私は大学図書館と病院図書室はやはり機能が全く違うものだと思います。限られた予算の中で有効に利用者の要求をとり入れ、かつフィードバックするには、現場のものが入っていないと上手く機能しないと思うのです。司書は元来そういった能力を身につけておくべきでしょうが、図書委員会の中で逆に司書がそういった面も教育されることが多いのは私の経験からも確かですので、是非司書の参加ということを考えていただきたいと思います。

図書委員会のメンバー構成につきましてはできれば各科から多くの方に参加していただくのが良いと思います。その場合、どうしてもその科の代表といいますか、極端な表現をしますと利益代表といった意識の方が決して少なくないのです。しかしやはり病院全体のことを考えて委員会の運営をするべきだと思いますので、その点お考えいただきたいと思います。以上です。

## 討 論

座長：ありがとうございました。今から約一時間弱の予定で論議をいたしたいと思います。そこで、今後の論議を一つは管理・運営に関すること、次に実務的な問題—収書やサービス—について、最後に如何に評価を行って図書室のよりよい運営を計っていくかという三点を中心に深めていき、可能であればある程度のまとめをしたいと思います。

まず、委員会の現状の中で特に委員会の位置づけについて考えてみたいと思います。アンケート調査によりますと独立機関であると

いう回答が実に16施設もある。これは設問自体にも問題があるのかもしれませんが、佐々木先生、このことについて何かご意見ございませんか。

佐々木：まず独立機関と回答された施設の方がいらっしゃるいましたら、どういう形の独立かお教え願いたいと思います。私のところは独立ではなく諮問機関であると考えていますが、図書委員会の活動について病院から干涉されることは全くありません。ただ先程も言いましたように財政的な面、人事面について決定権を握らない限り本当の意味での独立と